

各 位

2005年 2月 10日
杏 林 製 薬 株 式 会 社
東京都千代田区神田駿河台2 - 5
(証券コード 4560 東証一部)

子会社 ActivX Biosciences, Inc. における米国ファイザー社との 共同研究契約の締結について

杏林製薬株式会社(代表取締役社長;荻原郁夫)の100%子会社である ActivX Biosciences, Inc.(カリフォルニア州 Chairman、President:John W.Kozarich、以下「ActivX 社」)は、この度、米国ファイザー社とファイザー社が開発中の化合物について探索研究から開発までをカバーする複合的なプロジェクトに関して共同研究を拡大する旨の契約を締結いたしました。

この共同研究では、ActivX 社は最新のプロテオミクス技術と高速蛋白解析技術などを用い、米国ファイザー社の開発化合物についての探索研究及びプロファイリング、更に化合物の選択性・生物学的活性・毒性メカニズムの解析を行います。

ActivX 社は、2000年8月に設立された最先端のプロテオミクス技術を有するバイオベンチャー企業で、当社が2004年12月に子会社化いたしました。優れたノウハウ、知識、技術を有し、Activity Based Probe(ABP)を基本技術とする同社の高速蛋白解析手法は、蛋白活性を迅速に解析するものとして世界の大手製薬企業からも注目されておりました。この度の米国ファイザー社との戦略的な共同研究の拡大は、ActivX 社の技術が評価された結果と考えており、今後も優れた技術を核とした活動を推進いたします。

—以上—

<お問い合わせ先>

杏 林 製 薬 株 式 会 社 経 営 企 画 部
T E L : 0 3 - 3 2 9 3 - 3 4 1 4
F A X : 0 3 - 3 2 9 3 - 3 4 5 4

< 参考資料 >

アクティヴィックス バイオサイエンス社の概要

会社名：ActivX Biosciences, Inc.

代表者：John W. Kozarich (Chairman, President)

所在地：11025N.Torrey Pines Rd. La Jolla, CA 92037 (米国カリフォルニア州)

従業員：約30名

事業内容：独自のプロテオミクス技術を用いた創薬ターゲットの探索と化合物の評価

用語解説

プロテオミクスとは

多くの病気の原因となる分子は遺伝子によって表現される蛋白質です。体には様々な細胞があり、その活動を支えるのも、違いを生み出すのも蛋白質です。この1つの細胞や組織において発現している全蛋白質を集合的にプロテオーム(proteome)と呼び、一般的に特定の細胞や組織で作られる全蛋白質を明らかにし、それらの働きや相互作用を分析することをプロテオミクス(proteomics)と言います。つまり、生体内の細胞や組織で作られる蛋白質の構造と機能を明らかにし、病気の仕組みや進行の管理、治療薬の効果などにおける蛋白質の役割を直接理解し、最終的には治療薬開発に役立てようという総合的研究がプロテオミクスです。

Activity Based Probe(ABP)とは

ABPは、ある種の酵素群においてその酵素が活性化している状態の時にのみ特異的に結合するようデザインされ、また検出可能な構造を有している化学物質(プローブ)です。例えば阻害剤などが同時に存在する場合はこのプローブは結合しません。このプローブと細胞抽出液を反応させた後にその溶液を電気泳動や質量分析装置で解析することにより、活性化している酵素の同定を行うことが出来ます。この手法により、ある酵素に特異的な阻害剤のスクリーニングなどに有効に活用できる技術がABPであり、最大の特長は、複数の類似した酵素の活性状態を一度に検出することが可能なことから、高活性で選択性の高い候補化合物のスクリーニングを効率的に行うことが出来ることです。